

2016年3月期 第3四半期決算

説明資料

株式会社 **トクヤマ**

2016年1月29日



CONTENTS

- 1 2016年3月期 第3四半期決算
- 2 2016年3月期 業績予想修正
- 3 トクヤママレーシア
- 4 今後の対応
- 5 中期経営計画2017の進捗
- 6 補足資料

① 2016年3月期 第3四半期決算

1. 決算概要
2. セグメント別売上高
／営業利益
3. 営業利益増減分析

1. 決算概要

連 結 (前年同期比)

(億円未満切捨て)
(億円)

	2015年 3月期 第3四半期累計	2016年 3月期 第3四半期累計	増 減	
			金額	%
売上高	2,220	2,266	+46	+2
営業利益	158	129	△29	△18
経常利益	110	93	△16	△15
親会社株主に帰属する 当期純損失	△788	△1,158	△369	-
1株当たり当期純利益(円)	△226.73	△332.91		
為替(円/\$)	107	122		
国産ナフサ価格 (円/kg)	68,900	45,700		

定性情報(前年同期比)

(売上高) 2,266億円(2%増)

増収要因: ソーダ灰、塩化カルシウム、太陽電池用多結晶シリコンなどの販売数量増

減収要因: 国産ナフサ価格下落に伴う石化製品の販売価格軟化

(営業利益) 129億円(18%減)

増益要因: 国産ナフサ価格下落や円安の影響による石化製品の損益改善

減益要因: トクヤママレーシアの減価償却費増

1. 決算概要

連 結（前年同期比）

（億円）

	2015年 3月期 第3四半期累計	2016年 3月期 第3四半期累計	増 減	
			金額	%
売上高	2,220	2,266	+46	+2
営業利益	158	129	△29	△18
経常利益	110	93	△16	△15
親会社株主に帰属する 当期純損失	△788	△1,158	△369	-
1株当たり当期純利益(円)	△226.73	△332.91		
為替(円/\$)	107	122		
国産ナフサ価格 (円/kg)	68,900	45,700		

定性情報(前年同期比)

(経常利益) 93億円(15%減)

増益要因: 為替差損から為替差益へ転換

減益要因: 営業利益の減少

(親会社株主に帰属する当期純損失) △1,158億円(赤字拡大)

増益要因: 固定資産売却益、投資有価証券売却益の計上

減益要因: トクヤママレーシアの多結晶シリコン製造設備の減損損失計上

1. 決算概要

連 結（前期末比）

（億円）

	2015年 3月末	2015年 12月末	増 減
総資産	5,545	4,122	△1,422
自己資本	1,625	433	△1,192
自己資本比率	29.3%	10.5%	△18.8ポイント
有利子負債	2,831	2,577	△254
D/Eレシオ	1.74	5.95	+4.21
ネットD/Eレシオ*	1.03	3.33	+2.30
1株当たり純資産(円)	467.36	124.51	

定性情報(前期末比)

*ネットD/Eレシオ: (有利子負債－現預金・現金同等物・金銭信託) / 自己資本

(総資産)

減少項目: トクヤママレーシア多結晶シリコン製造設備の減損損失計上による有形固定資産の減少
(自己資本)

減少項目: 当期純損失計上に伴う利益剰余金の減少
(有利子負債)

減少項目: 長期借入金及び社債の減少

2. セグメント別売上高／営業利益

(前年同期比)

(億円)

	2015年3月期 第3四半期累計		2016年3月期 第3四半期累計		増減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	681	38	661	56	△19	△3	+18	+48
特殊品	384	36	408	△37	+23	+6	△74	-
セメント	603	35	649	41	+45	+8	+6	+17
ライフアメニティー	438	36	433	49	△5	△1	+13	+36
その他	383	44	405	40	+22	+6	△3	△8
計	2,491	190	2,558	150	+67	+3	△40	△21
セグメント間消去・ 全社費用	△270	△31	△292	△20	△21	-	+10	-
連結決算	2,220	158	2,266	129	+46	+2	△29	△18

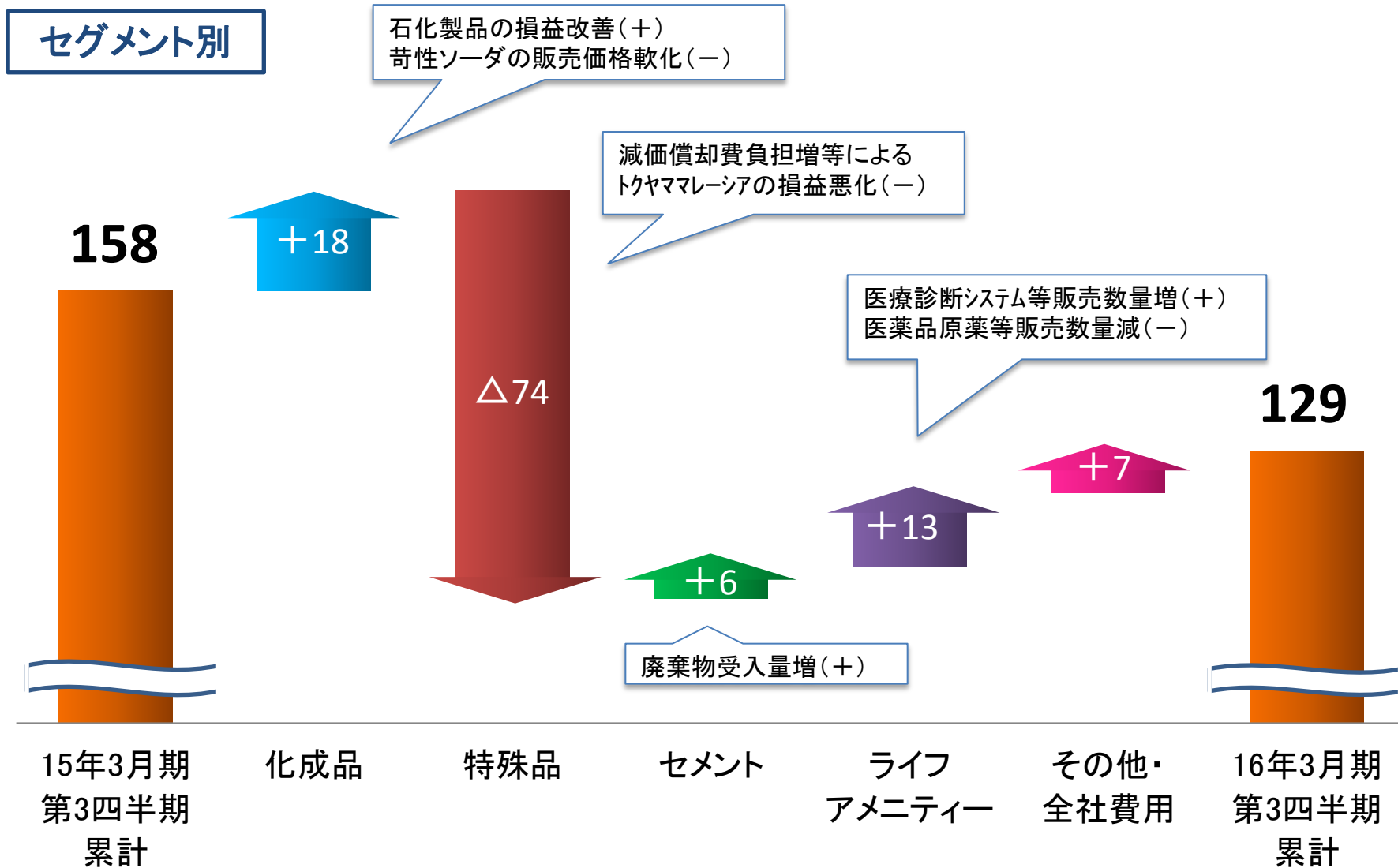
(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

(参考)

トクヤママレーシア	16	△18	57	△89	+41	+257	△70	-
-----------	----	-----	----	-----	-----	------	-----	---

3. 営業利益増減分析

(前年同期比) (億円)



2 2016年3月期 業績予想修正

- 1. 業績予想修正**
- 2. セグメント別業績予想修正**



1. 業績予想修正 連結（前回予想比）

(億円)

	2016年3月期 予想(10/30公表)	2016年 3月期 予想(1/29修正)	増減	2016年3月期 第3四半期累計
売上高	3,060	3,060	0	2,266
営業利益	200	200	0	129
経常利益	140	150	+10	93
親会社株主に帰属する 当期純損益	140	△1,030	△1,170	△1,158
1株当たり当期純利益(円)	40.25	△296.10		△332.91
為替(円/\$)	121	121		122
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	44,000	43,900		45,700

修正の理由

(売上高)

据え置き

(営業利益)

据え置き

(経常利益)

増益要因： 営業外収支の改善

(親会社株主に帰属する当期純損益)

増益要因： 固定資産売却益、
投資有価証券売却益の計上

減益要因： トクヤママレーシアの多結晶シリコン
製造設備の減損損失計上

2. セグメント別業績予想修正 (前回予想比)

(億円)

	2016年3月期予想 (10/30公表)		2016年3月期予想 (1/29修正)		増減		2016年3月期 第3四半期累計	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化成品	870	75	870	80	0	+5	661	56
特殊品	630	△15	620	△15	△10	0	408	△37
セメント	840	60	840	55	0	△5	649	41
ライフアメニティー	580	60	580	60	0	0	433	49
その他	550	50	550	50	0	0	405	40
計	3,470	230	3,460	230	△10	0	2,558	150
セグメント間 消去・全社費用	△410	△30	△400	△30	+10	0	△292	△20
連結決算	3,060	200	3,060	200	0	0	2,266	129

(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

(参考)

トクヤママレーシア	96	△112	84	△108	△12	+4	57	△89
-----------	----	------	----	------	-----	----	----	-----

③ トクヤママレーシア

1. トクヤママレーシア多結晶シリコンプラントの減損
2. プラントの現状と今後のスケジュール



1. トクヤママレーシア多結晶シリコンプラントの減損

・太陽電池向け多結晶シリコン市況の下落に基づく事業環境の悪化と、2015年10～11月に実施したトクヤママレーシア多結晶シリコンプラントの定修後の状況を踏まえ、当該プラントの中長期の事業計画を見直し、将来の投資回収可能性を検討した結果、2016年3月期第3四半期連結会計期間において、1,234億円の減損損失を特別損失として計上

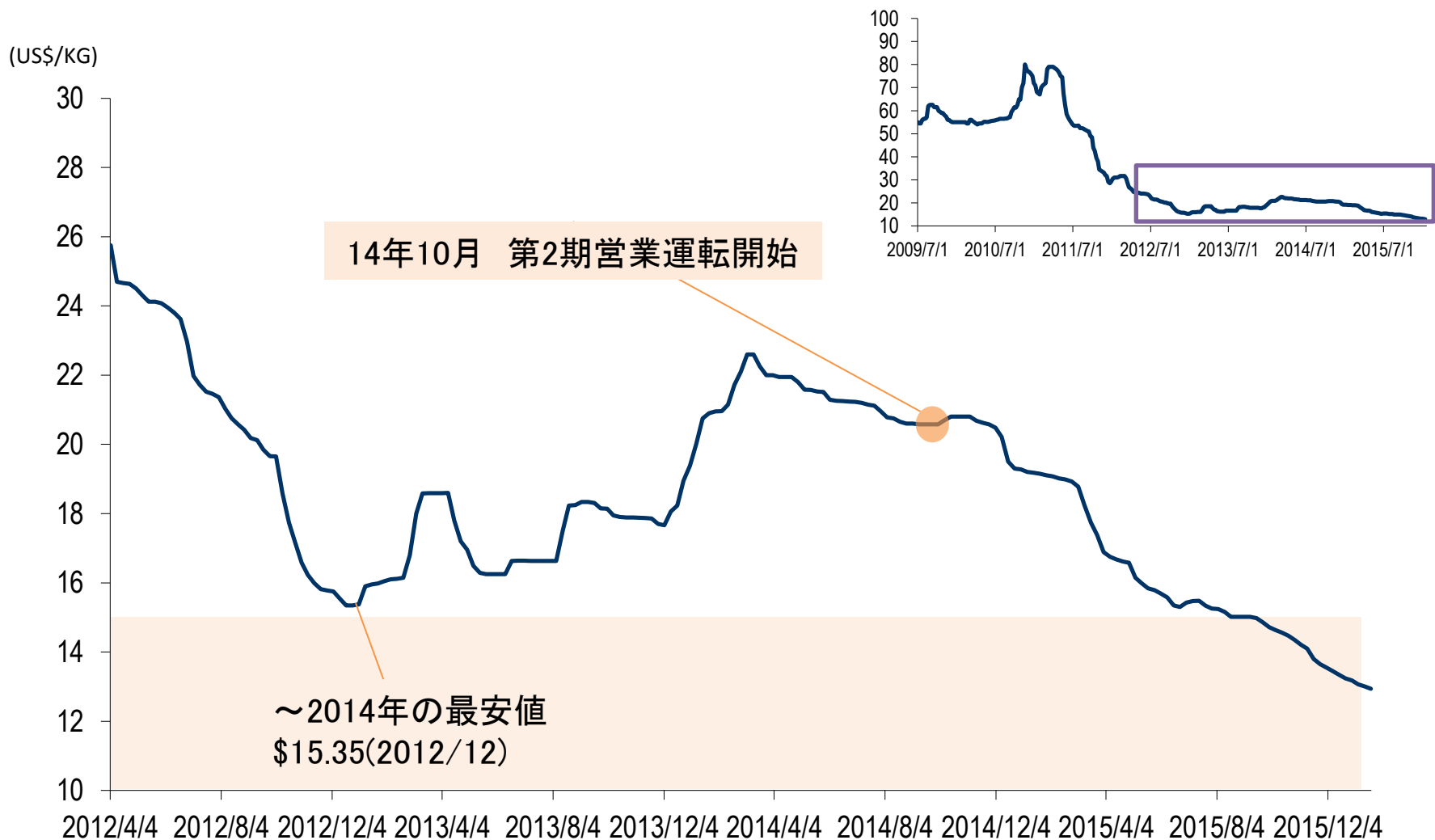
※減損損失計上後のプラントの簿価は94億円

※減損損失計上による当期キャッシュ・フローへの影響はない

トクヤママレーシア 事業計画の前提条件

	中期経営計画2017	今回見直し
スポット市況	US\$ 16～20/kg	US\$13.5～15/kg
販売数量(平準値)	12,000トン／年	11,000トン／年
為替(円／US\$)	115	120
為替(円／MYR)	35	28

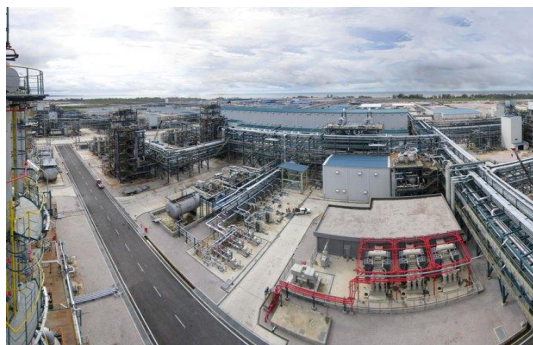
(参考) 多結晶シリコン市況(2012年4月~)



出典: PV insights

2. プラントの現状と今後のスケジュール

	2015年度(16/3)	2016年度(17/3)	2017年度(18/3)	2018年度(19/3)
PS1	有効活用策を検討			
PS2	15年10～11月 定期修繕実施 15年12月 再稼働	→ コストダウンを実施	→ 通期黒字化達成	→
	(販売数量:5,000トン)	(販売数量:8,000トン)	(販売数量:11,000トン)	(販売数量:11,000トン)



トクヤママレーシア第2期プラント(PS-2)

所在地: マレーシア サラワク州 サマラジュ工業団地
 用途: 太陽電池向け多結晶シリコン
 生産能力: 13,800トン/年
 製造技術: ジーメンス法

4 今後の対応

- 1. 財務再建計画**
- 2. 役員報酬の返上、
今後の対応について**



1. 財務再建計画

財務制限条項抵触について

- ・今回の特別損失計上により、今期末で財務制限条項へ抵触する可能性の高い借入金について、取引金融機関に対し適用免除・取引継続、条項抵触回避の申し入れを行った
- ・運転資金、借入金返済予定額に対して十分な手元資金を確保しており、資金調達について安定的であることを確認している

今後の財務再建計画・資本政策について

- ・純資産の回復策は、金融機関等とも協議しながら多面的に検討する
- ・負債・資本構成など今後の資本政策については、今回の特別損失、中期経営計画の見直し、昨今の事業環境等を踏まえ、再検討を行う

メイン銀行の三菱東京UFJ銀行を始めとする取引金融機関からは、引き続きの支援表明をいただいている

2. 役員報酬の返上、今後の対応について

役員報酬の返上

2期連続で巨額の損失を計上、株主資本を大きく毀損する見通しとなったことを重く受け止め、以下の通り、役員報酬の自主返上を2016年6月まで実施いたします。

役員報酬の返上内容：

会長執行役員、社長執行役員： 年棒50%を自主返上
それ以外の執行役員、理事： 年棒30%を自主返上

原因究明委員会の設置

今回減損処理を行うに至ったトクヤママレーシアへの投資を検証するため、社外メンバーを含む「原因究明委員会」を設置し、調査結果、指摘事項を今後の経営、事業運営に活かしてまいります。

中期経営計画の見直し

2015年7月に策定した「中期経営計画2017」については、トクヤママレーシアの事業計画変更を反映した見直しを行い、期末の決算発表時に公表する予定です。

株主・投資家を始めとするステークホルダーの皆様におかれましては、何卒ご理解と、引き続きのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



5 中期経営計画2017の進捗

事業収益力の強化の取り組み

資産の徹底活用

- ・多結晶シリコンの休止中製造設備(徳山製造所)の再稼働準備完了(16年度稼働予定)

顧客起点による成長

- ・液化水素製造の合併会社山口リキッドハイドロジェン(株)が、今後の水素需要増に対応するため、液化水素の能力を2倍に増強することを決定(2017年11月稼働予定)
- ・パワー半導体デバイスの新規放熱材料向けに開発した窒化ホウ素の試作設備導入、顧客へのサンプルワーク開始を決定(16年度稼働予定)

財務基盤の再建

- ・渋谷金王ビルなどの資産売却により、今期末までに約125億円の特別利益、約170億円のキャッシュインを計上予定。
- ・投資有価証券の一部売却により3Qで33億円の特別利益を計上、4Q以降も売却を予定。
- ・有利子負債残高を2015年12月末時点で前期末比254億円削減
- ・キャッシュアウト抑制(経費△3億円、人件費△17億円)※1-3Q累計、前年同期比

Chemistry with a heart

TOKUYAMA



6 補足資料

1. 連結財務諸表(要約)
2. セグメント別売上高／
営業利益
3. 業績推移
4. 業績予想修正(上期・下期)
5. 多結晶シリコン市場
6. 太陽電池市場

1. 連結財務諸表(要約)

損益計算書

(億円)

	2015年3月期 第3四半期	2016年3月期 第3四半期	増減	
			金額	%
売上高	2,220	2,266	+46	+2
売上原価	1,593	1,662	+68	+4
販管費	467	474	+7	+2
営業利益	158	129	△29	△18
営業外損益	△48	△35	+12	-
経常利益	110	93	△16	△15
特別損益	△882	△1,166	△283	-
税前当期純損失	△771	△1,072	△300	-
法人税等	17	85	+68	+401
親会社株主に帰属する 当期純損失	△788	△1,158	△369	-

6 補足資料

1. 連結財務諸表(要約)

貸借対照表

(億円)

	2015年 3月末	2015年 12月末	増減	
			金額	%
資産合計	5,545	4,122	△1,422	△26
流動資産	2,439	2,410	△29	△1
有形固定資産	2,533	1,228	△1,305	△52
無形固定資産	97	72	△25	△26
投資その他の資産	474	411	△62	△13

	2015年 3月末	2015年 12月末	増減	
			金額	%
負債合計	3,850	3,603	△246	△6
流動負債	1,172	1,206	+34	+3
固定負債	2,677	2,396	△280	△10
純資産合計	1,694	518	△1,175	△69

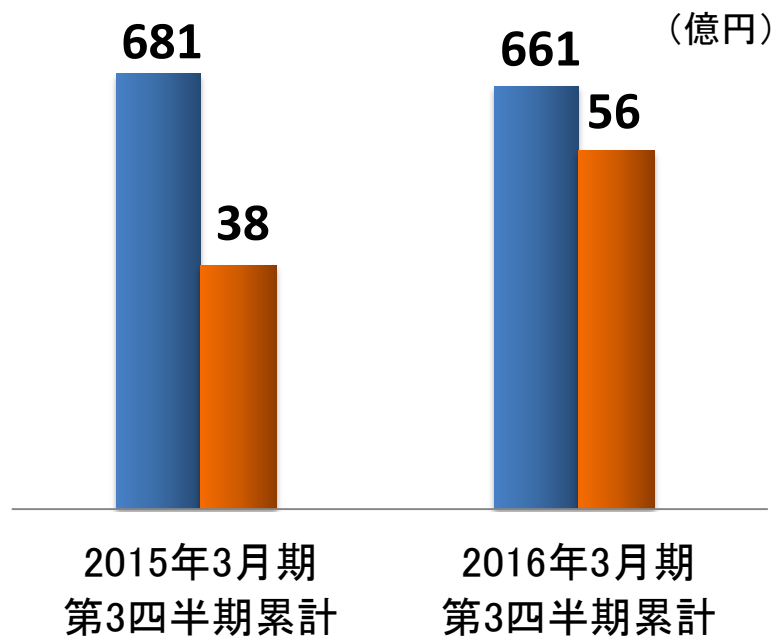
2. セグメント別売上高／営業利益

(前年同期比)

化成品

減収増益

■ 売上高 ■ 営業利益



定性情報

- (苛性ソーダ)
 - ・販売価格の軟化による減収
- (塩ビモノマー)
 - ・国産ナフサ価格の下落に伴う原料コストの減少による損益改善
- (塩ビ樹脂)
 - ・サプライチェーンにおける在庫調整による販売数量減
- (ソーダ灰・塩化カルシウム)
 - ・トクヤマ・セントラルソーダ営業開始による増収

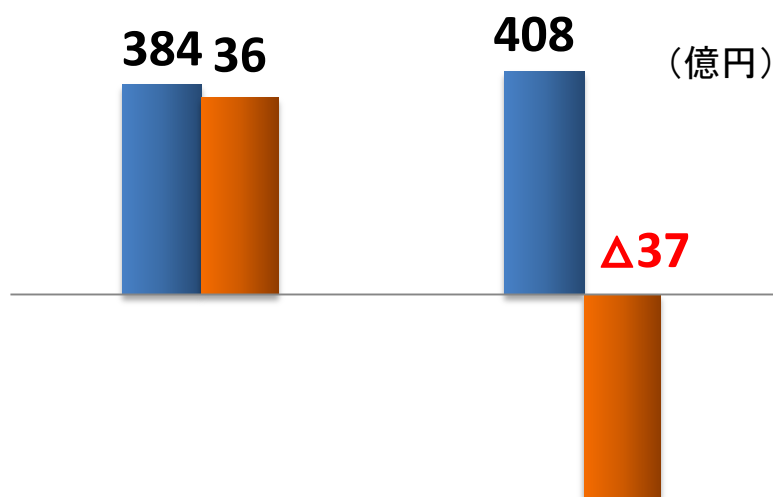
2. セグメント別売上高／営業利益

(前年同期比)

特殊品

増収赤字転落

■ 売上高 ■ 営業利益



2015年3月期
第3四半期累計

2016年3月期
第3四半期累計

定性情報

(半導体用多結晶シリコン)

- ・スマートフォンなど携帯端末の需要は堅調なもの、サプライチェーンの在庫調整により販売数量減

(太陽電池用多結晶シリコン)

- ・トクヤママレーシアからの出荷開始により、販売数量は増加したものの、減価償却費増により損益悪化

(乾式シリカ)

- ・半導体用研磨材向けを中心に販売数量増

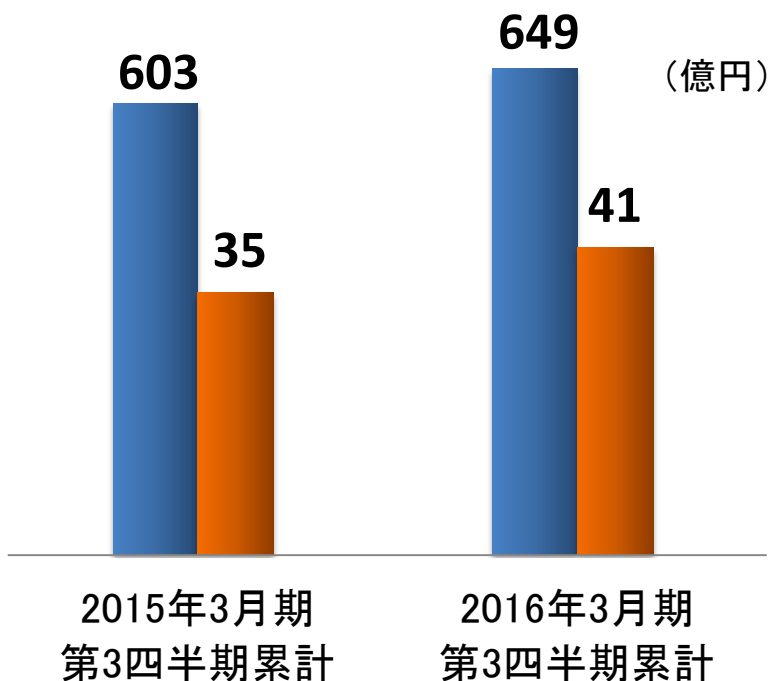
2. セグメント別売上高／営業利益

(前年同期比)

セメント

増収増益

■ 売上高 ■ 営業利益



定性情報

(セメント)

- ・公共工事の減少、天候不順による工事遅れ等の影響で国内販売数量減
- ・大型案件向けに生コン等の販売数量増

(資源環境事業)

- ・建設発生土などの廃棄物受入数量増

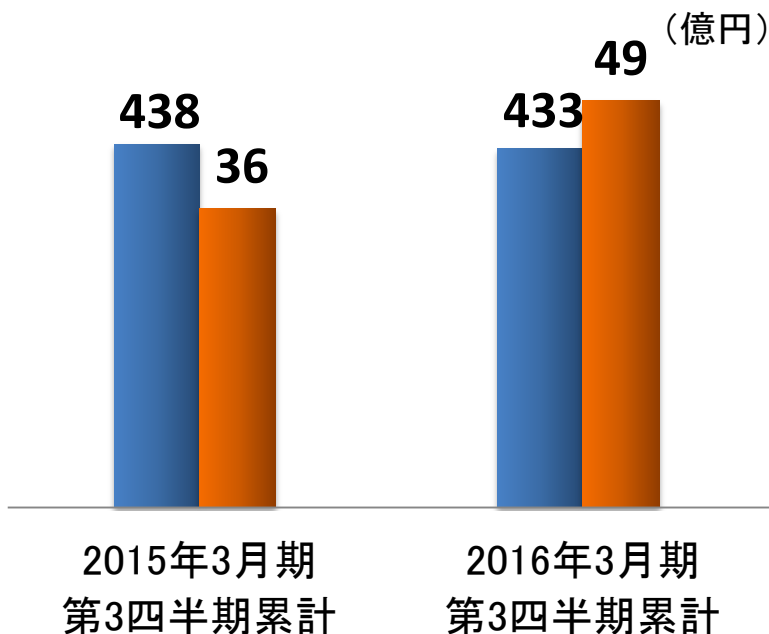
2. セグメント別売上高／営業利益

(前年同期比)

ライフアメニティー

減収増益

■ 売上高 ■ 営業利益



定性情報

(医薬品原薬)

- ・ジェネリック医薬品向けの販売数量減

(プラスチックレンズ関連材料)

- ・フォトクロミック材料の販売数量増

(微多孔質フィルム)

- ・紙おむつ向けの販売数量増

(ポリオレフィンフィルム)

- ・コンビニ向けを中心に販売数量増
- ・原料価格下落に伴う販売価格の軟化

(歯科器材)

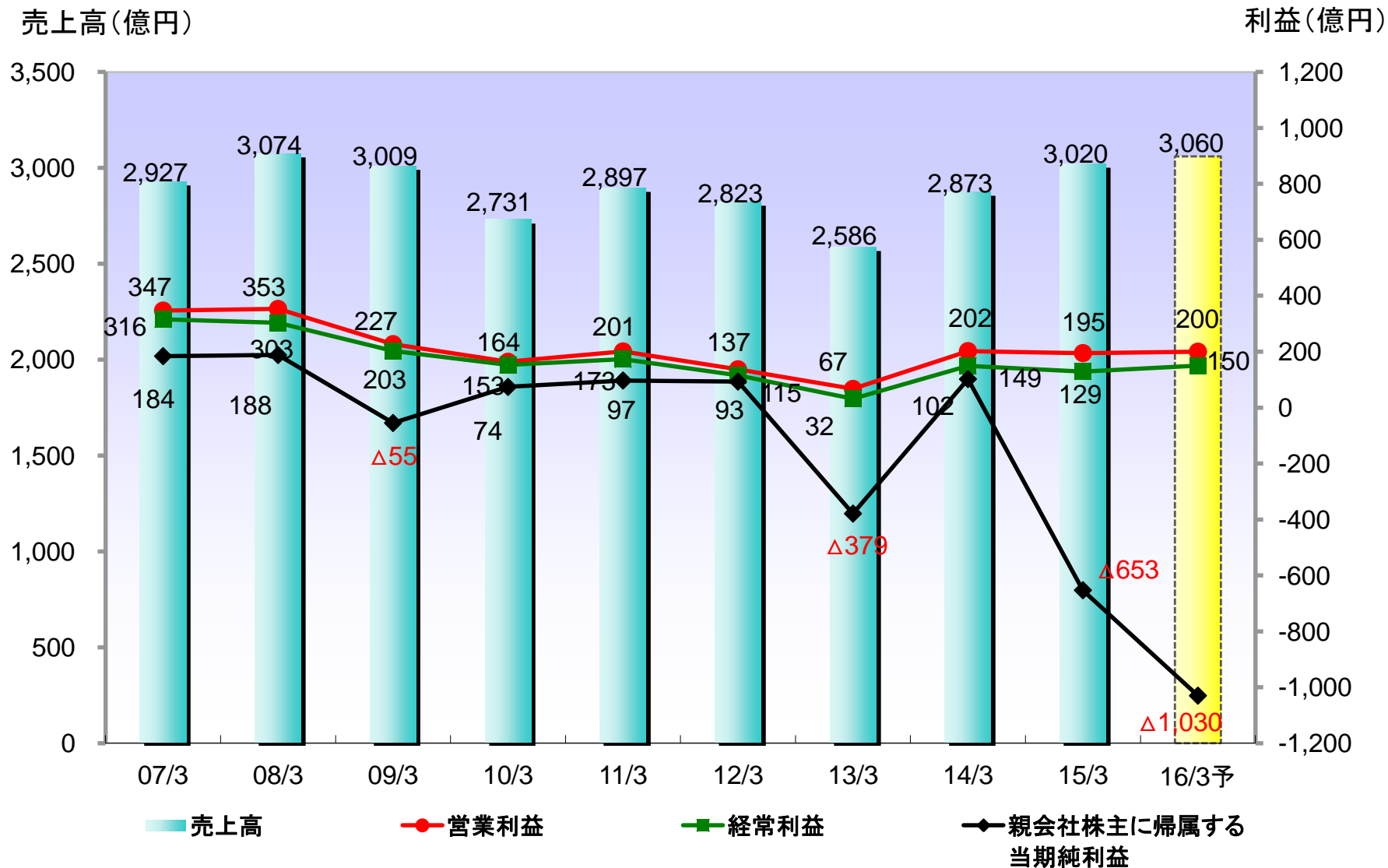
- ・新製品、海外向けの販売数量増

(医療診断システム)

- ・血液検査向けに販売数量増

3. 業績推移

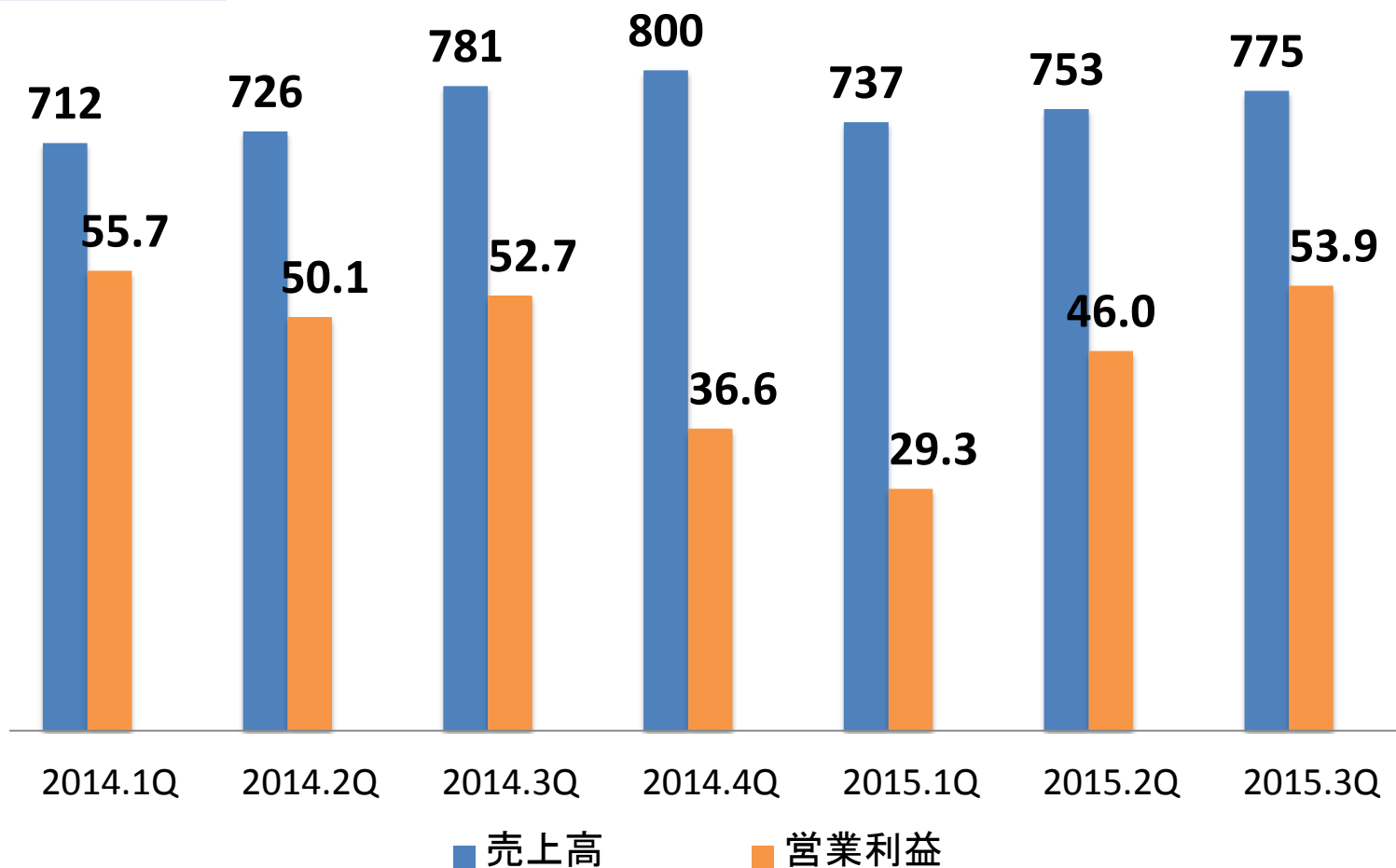
連 結 (通 期)



3. 業績推移 (四 半 期)

連結

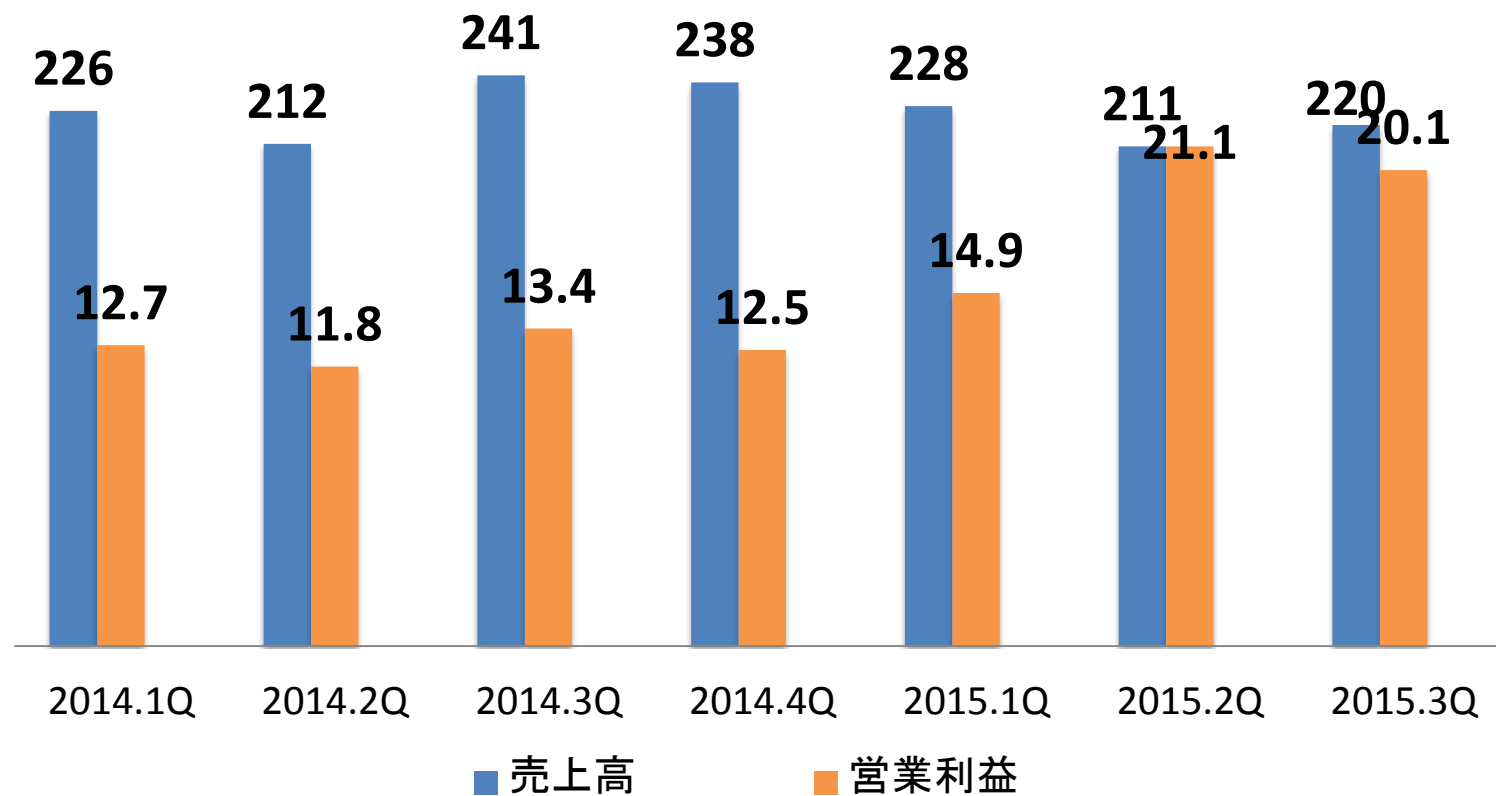
(億円)



3. 業績推移 (四 半 期)

化成品

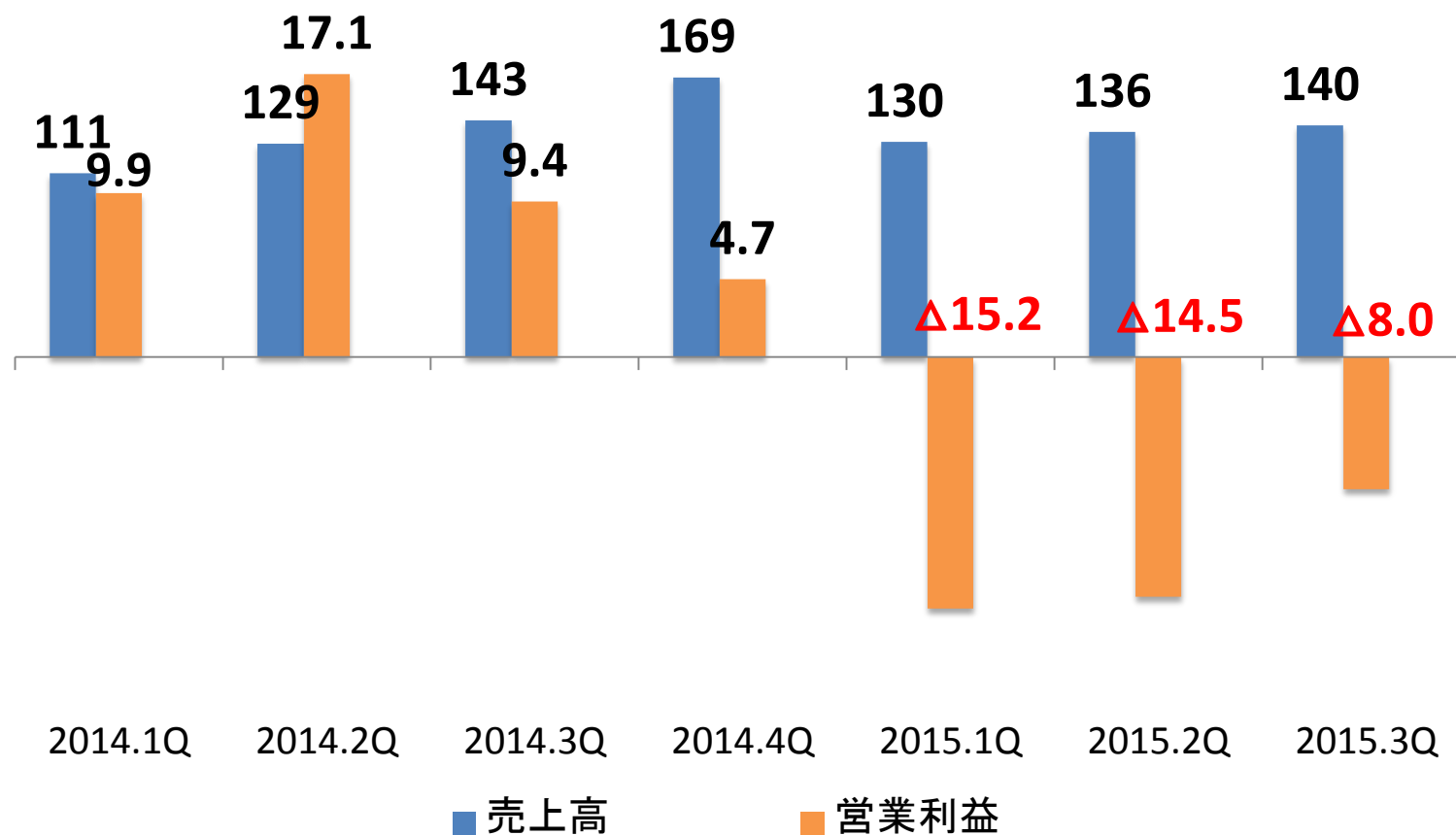
(億円)



3. 業績推移 (四 半 期)

特殊品

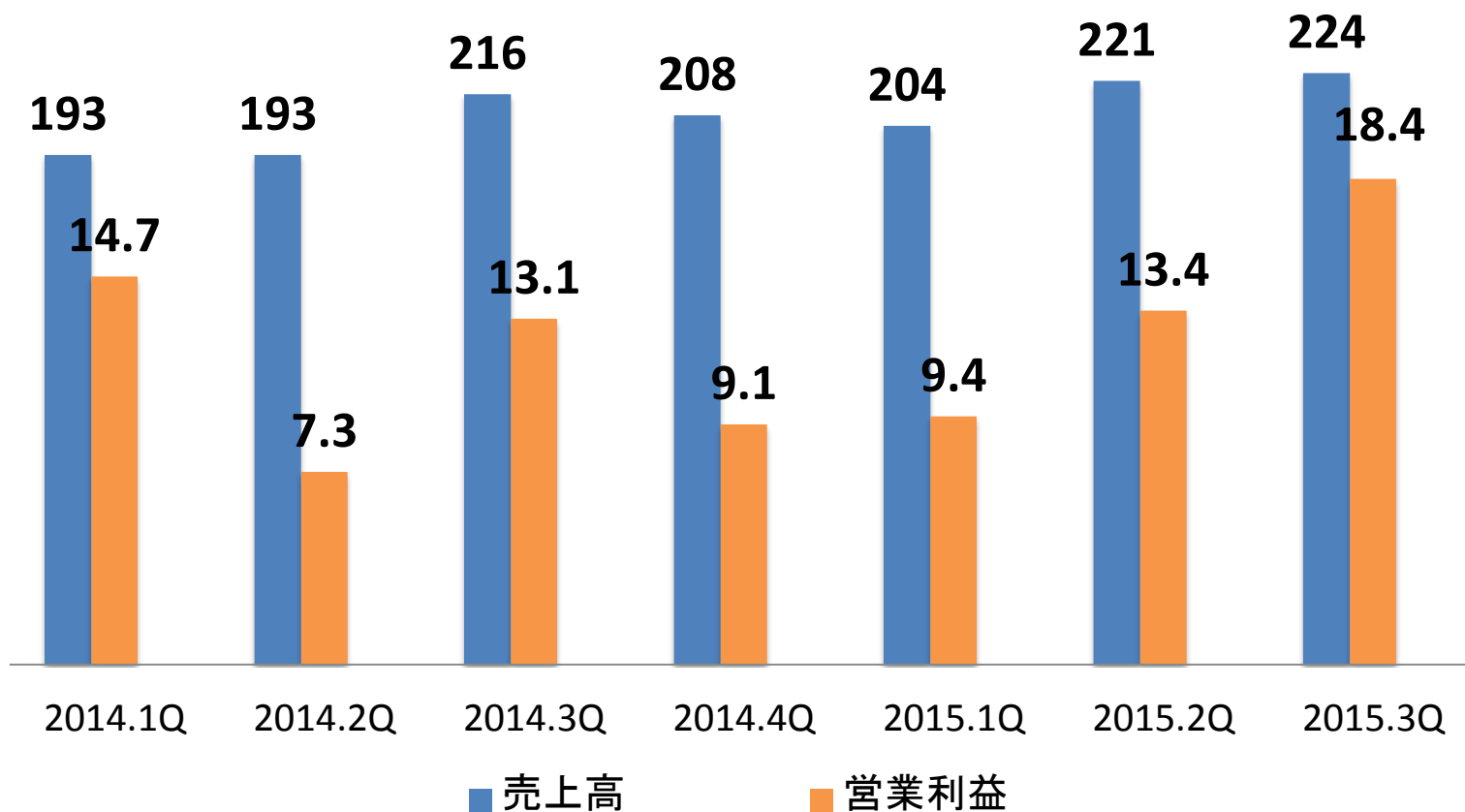
(億円)



3. 業績推移 (四 半 期)

セメント

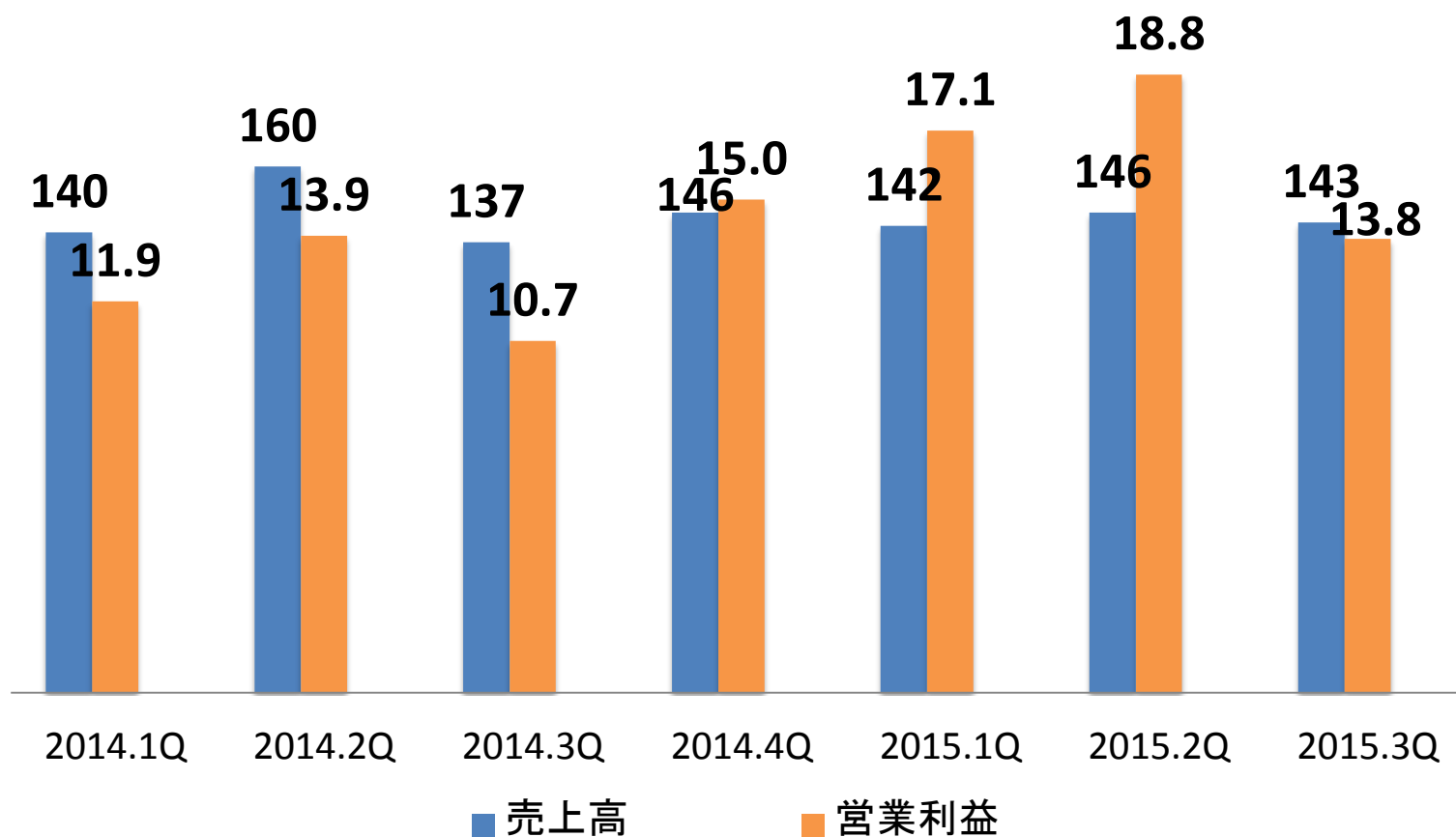
(億円)



3. 業績推移 (四 半 期)

ライフアメニティー

(億円)



4. 業績予想修正(上期・下期)

連 結(前回予想比)

(億円)

	2016年3月期予想(10/30公表)			2016年3月期予想(1/29修正)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	1,491	1,569	3,060	1,491	1,569	3,060
営業利益	75	125	200	75	125	200
経常利益	52	88	140	52	98	150
親会社株主に帰属する 当期純損益	27	113	140	27	△1,057	△1,030
1株当たり純利益(円)	8.00	32.25	40.25	8.00	△304.10	△296.10
為替(円/\$)	122	120	121	122	121	121
国産ナフサ価格 (円/kl)	48,000	40,000	44,000	48,000	39,900	43,900

6 補足資料

4. 業績予想修正(上期・下期)

セグメント別(前回予想比)

(億円)

	2016年3月期予想(10/30公表)						2016年3月期予想(1/29修正)					
	上期		下期		通期		上期		下期		通期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化成品	440	36	430	39	870	75	440	36	430	44	870	80
特殊品	267	△29	363	14	630	△15	267	△29	353	14	620	△15
セメント	425	22	415	38	840	60	425	22	415	33	840	55
ライフアメニティー	289	36	291	24	580	60	289	36	291	24	580	60
その他	267	25	283	25	550	50	267	25	283	25	550	50
計	1,691	90	1,779	140	3,470	230	1,691	90	1,769	140	3,460	230
セグメント間 消去・ 全社費用	△199	△15	△211	△15	△410	△30	△199	△15	△201	△15	△400	△30
連結決算	1,491	75	1,569	125	3,060	200	1,491	75	1,569	125	3,060	200

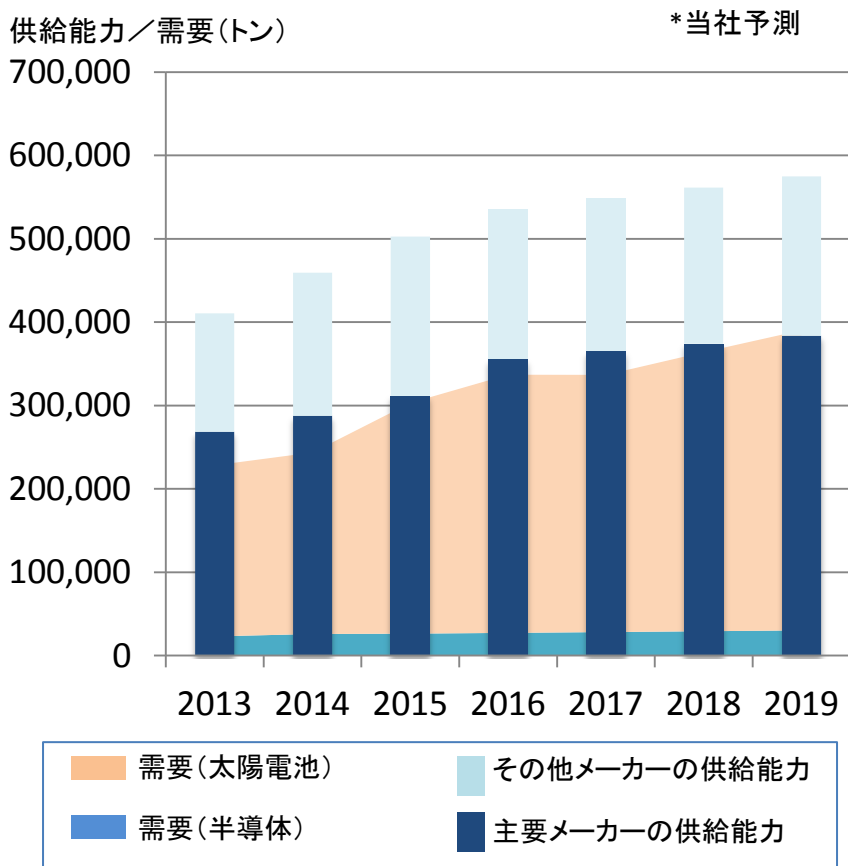
(注)各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

(参考)

トクヤマレーシア	36	△64	60	△48	96	△112	36	△64	48	△44	84	△108
----------	----	-----	----	-----	----	------	----	-----	----	-----	----	------

5. 多結晶シリコン市場

多結晶シリコンの需給予測



(注1) 主要メーカーは、IHSのTier1メーカー
 (注2) 需要は、IHSを基に、当社予測

今後の見通し

<半導体向け需要>

◆モバイル機器の需要拡大等で年率3-4%程度の増加が見込まれる

<太陽電池向け需要>

- ◆COP21でのCO2削減に関する新たな枠組みが追い風となる
- ◆欧州を始めとする一部の国・地域で減速傾向が見られるものの、中国、米国、インドを始めとする多くの国・地域で積極的な導入政策等による成長が見込まれ、年率10%程度の需要拡大が見込まれる

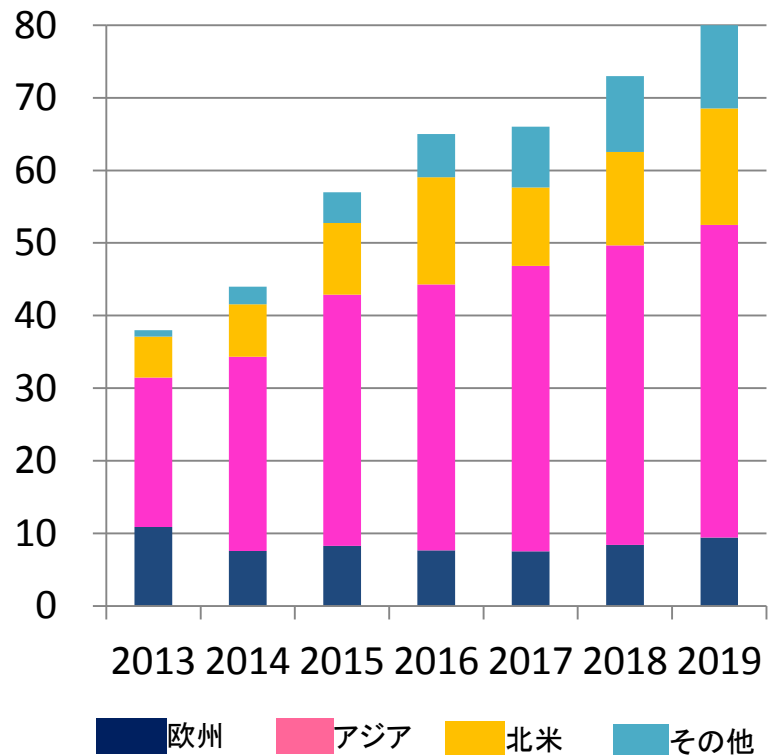
<供給サイド>

◆当面供給能力過剰の状況が続く。コスト競争力が生き残りのカギとなる

6. 太陽電池市場

地域別太陽電池導入量予測

単位:GW



(注)IHS Market Tracker (PV Integrated) Q4 2015のデータ等を基に当社予測

各国の状況

<中国>

◆2015年9月に公表された2015年導入目標の上載せ分(5.3GW)は16年上期までの連系が求められている。FIT減額前の駆け込み需要と併せて、16年上期は需要の増加が期待される。

◆第13次5カ年計画の中で、2020年までの太陽電池の導入目標値が更新される見込み

<日本>

◆2012年7月の現行固定価格買取制度の導入以降、太陽光発電の導入量が急増。2015年1-9月の導入量は7.4GW(昨年同期6.1GW)

◆経産省がまとめた「長期エネルギー需給見通し」における、2030年度の望ましい電源構成は太陽電池7%(約64GW相当)

<インド>

◆モディ政権は2022年までに100GWの導入目標を表明

◆新たなクリーン・エネルギー目標(2030年の再エネ比率40%:太陽電池250GW相当)を承認する方針

<米国>

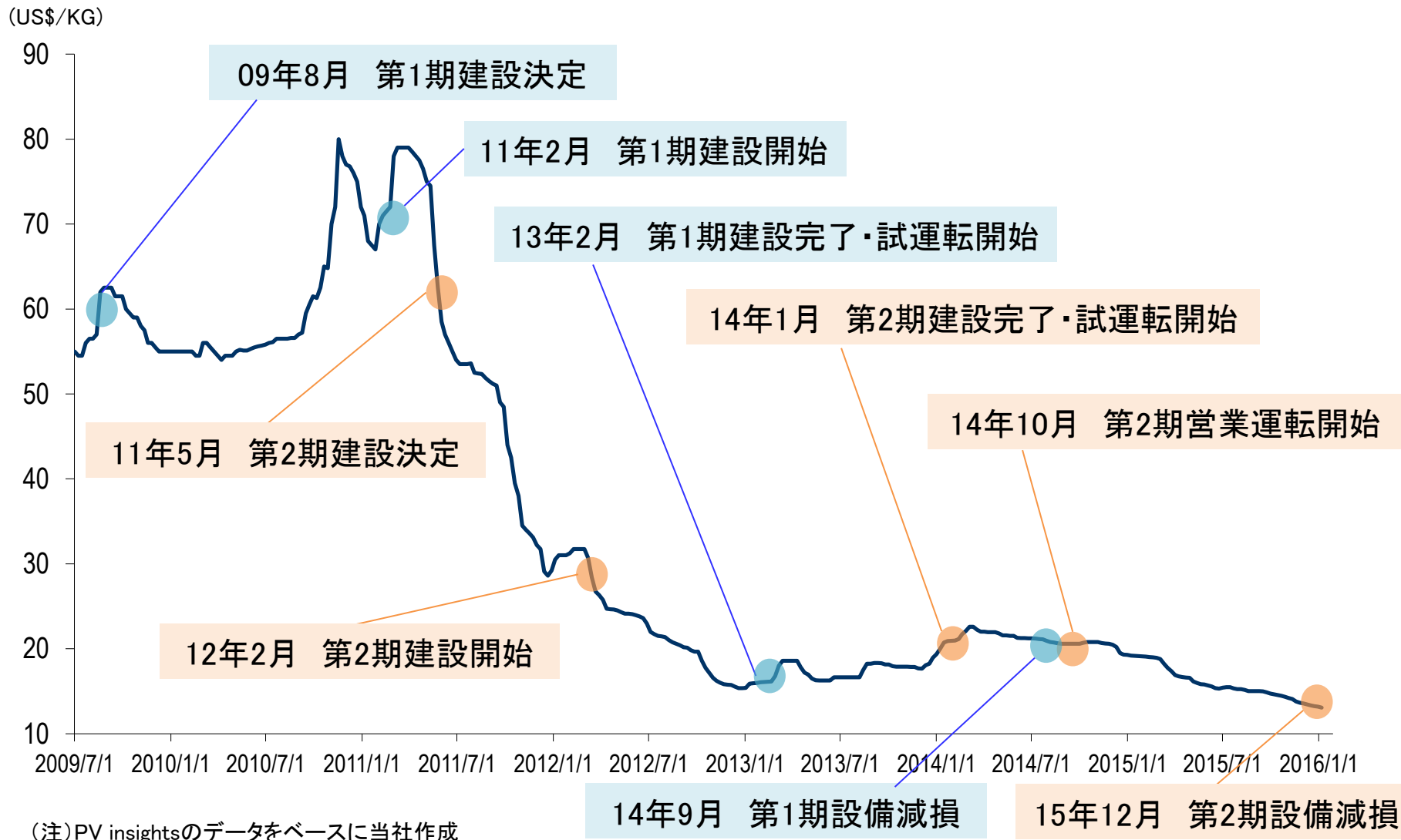
◆米国議会において、投資税額控除(ITC)の延長を可決。2020年までの太陽光発電システムの導入量増加が期待される

<欧州>

◆政策による支援縮小等の影響はあるものの、中長期的には緩やかに成長すると期待される

6 補足資料

(参考) 多結晶シリコン市況とマレーシア計画の経緯



本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

Chemistry with a heart

TOKUYAMA

